

ドレス製作においてデザインを効果的に表現するための試み — デイテールについて一考察 —

小 川 秀 子

Approaches for expressing design effectively in making dresses — Discussion on details —

Hideko Ogawa

1. はじめに

シルエットが服装全体をあらわす外形線であるのに対して、デイテールはシルエット内部の部分的な形である、ネックライン、カラー、スリーブあるいは布地を立体化するために施した構造線やトリミングなどの細部をさしている。

我々が身につけている成形被服型の衣服の場合、体にフィットさせる方法として、ダーツや切替え線を用いたり、体から遊離させて、ゆとりやふくらみなどをもたせる技法として、ギャザー、プリーツ、タック、ドレープなど高度な技術を施し立体的に構成されている。服飾におけるデザインを考える場合、目的や機能に合わせ、適切な形や色、素材を造形的に組み合わせることでデザインは成立する。

そこで本稿では、ドレスのデザインにおけるデイテールの役割について、ウェディング・ドレスとデザインドレス10点をとりあげ、布地の物質特性とデザイン効果を研究し、若干の結果を得たので報告する。

2. テキスタイルの表現効果

ドレスをデザインする場合、インスピレーションを具体的に表現するために、布地のもつ表現性が大きく影響する。テキスタイルの表現効果をみると、布地の外観やテクスチャはイメージ効果につながり、軽重感、硬軟感、粗滑感、寒暖感、透明感、拘束感など質感効果を表現する。

造形効果としてはギャザー、ドレープ、フレアー、タック、プリーツ、切替え線などが挙げられ、さらに補助効果の装飾的なものとして、ステッチ、パイピング、フリル、ブレード、レース飾りなどがある。デザインを形にする場合、テキスタイルの質感効果は①～④で示すように重要な要素になる。

- ① 軽量感で見ると、シフォンやオーガンジーのように軽くて薄い布地は、ギャザーやタックを入れることで布地の表情に変化があらわれる。
- ② 硬軟感で見ると、技巧的なドレープやシャーリング、フレアーなど、しなやかな質感をもつ布地のほうが適応しやすい。
- ③ 光沢感で見ると、なめらかで光沢のある布地は、高級な、豪華な、派手な、品格の高いなど、外

観を呈し、フォーマルドレスや舞台衣装などに用いられる。

- ④ 透明感で見ると、透ける布地のもつ情緒的、幻想的な美しさで、視覚にあたえる美しさは、技巧により大きく左右される。同じ透ける布地であっても、オーガンジー、シャー、チュールなど、質感にやや張り感がある布地と、ボイル、綿、絹チュール、ローンなど、張りがあまりないものもある。

また、造形効果として表現されるギャザー、ドレープ、フレアーの特徴は次のとおりである。

- ・ギャザー：ギャザーの美しさは、布にしわづけられた陰影にある。陰影は布地のもつ風合いや、寄せる量によって、直線を描いたり曲線を描いたり、時には流れるように走る線を表現する。
- ・ドレープ：布地で人体を覆ったときに出る布のたるみや、たわみを利用してつくり出す襞の状態をいう。技巧的につくり出した美しいドレープの形や動きは優雅な雰囲気をかもし出し、ドレープはやわらかな曲線的な印象を与える。
- ・フレアー：布地の質感や地の目方向によって大きなうねりのある広がり表現し、優雅な雰囲気をかもし出す。

3. ギャザー性、ドレープ性、フレアー性の形状についての布地別による比較

ドレスを製作する場合、使用頻度が高いブライダルサテン、ポリエステルオーガンジー、シフォンジョーゼット、フェーク・レザーの4種類の布地を用いて実験を試みた。

図1にギャザー性とフレアー性について、布地別の比較を示した。

図1 布地別による比較



ギャザー性についてみると、薄くて張り感のあるポリエステルオーガンジーは、経・緯方向の布目でギャザーを入れた場合、バイアス方向より落ちつかないギャザーになっていることが分かる。シフォンジョーゼットの場合は、布目方向に関係なく美しいギャザーが表現できている。

フェーク・レザーの場合は、経・緯・バイアス方向と表情に大きな違いがないように見えるが、バイアス方向に寄せたギャザーは、軟らかい表情のギャザーをつくり出している。バイアス地で比較した場合は、4種類ともギャザーが落ち着いて入っていることが分かる。

フレアー性について、5か所、7か所、円断ちの形状について比較した。円断ちにした場合、ポリエステルオーガンジーは薄くて張り感があるために、少し落ちつかない形状になっていることが分かる。フェーク・レザーの場合は落ちついたフレアーが表現できている。

4. ギャザー、ドレープ、フレアーを取り入れたドレスの解説

2010～2012年度の教科発表（ファッションショー）における学生の作品10点を、図2のNo.1～No.10に示した。これらの作品No.1～No.10に使用した生地と組成繊維は、作品No.ごとにまとめて表1に示した。また布地の諸元は表2に示したとおりである。

No.1

シフンプリントとシフォンジョーゼットの2枚をもちいてつくられた、アシンメトリーのドレスは、左ショルダーから右バストにかけて、バイアス地をもちいてドレープを寄せている。薄く柔らかなシフンの特性を生し、ハイウエストに入れたギャザーはつけ寸法の5.9倍である。

花びらをイメージした袖は、図3に示したように、楕円形に裁断したバイアス地をふたつ折りし、粗ミシンでギャザーを寄せた花びらをつくり、土台となる袖に可愛らしくデコルテした。

No.2

薄くて柔らかなシフォンジョーゼットの物性を生かしてデザインしたドレスである。図4に示したように、布地を正方形で裁断し、さらに、バイアス方向で裁断し、二等辺三角形に裁断したすべての裁ち目を巻きロックミシンで始末している。ドレープ性に富んだシフォンは、柔らかく優しいフレアーを表現し、動くたびに美しい流線をつくり出すことができる。ヘムラインをイレギュラーにすることで、デザインに面白さが加わった。

No.3

薄く張り感の強いオーガンジーを用いてアシンメトリーにデザインしたドレスである。図5に示したように、ベアトップドレスを基にして、ギャザーとドレープを前身頃脇線でパターン展開している。粗裁ちした布地をボディ上でドレーピングし、優雅で美しいドレープを表現することができた。ヘムラインに装飾したフリルは、バイアス方向の布地をもちいているが、不規則な面白さを表現するために、ギャザーの内側でランダムに留めている。

No.4

フェーク・レザーと超合金を用いてデザインしたドレスである。図6に示したように前身頃を三面構成にデザインしている。ドレスのポイントである前身頃の中心部分は、造形的にギャザーやドレープが美しく表現しやすい、超合金を用いている。ランダムにパターンを展開することで、不規則なギャザーが面白さに繋がり、個性的なドレスになっている。

No.5

No.4のドレスと同様にフェーク・レザーを用いたドレスである。ベアトップのドレスはアシンメト

図2 2010～2012年度の教科発表（ファッションショー）における学生作品

No. 1



No. 2



No. 3



No. 4



No. 5



No. 6



No. 7



No. 8



No.9



No.10



リーに切り替えたローウエスト部分に、ゴールドの超合金を加えデザインした。2枚のフェーク・レザーに同寸法のギャザー・フレアーを入れているが、差し色の超合金がデザインの面白さを表現している。

No.6

薄手のツインクルサテンと張り感のあるオーガンジーの2種類の布地をもちいている。豪華でエレガントなイメージを表現したドレスは、細いウエストからバストに向かって、デザインしたフレアーとタックは、図7で示すように、フレアーの形状が最も美しく形成できる半円形にタック分量を加えてパターン展開している。このドレスの最大のポイントは、トップスのフレアーであるが、テクノロート（プラスチックの針金）を入れ、究極の美しさを表現することができた。

図3 花びらをイメージした袖

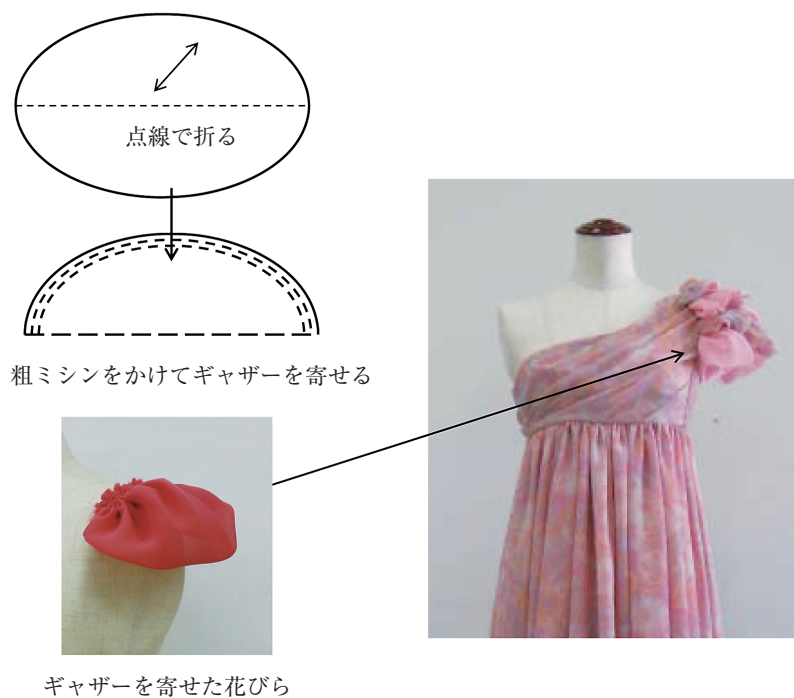


図4 シフォンジョーゼットの物性を生かしたデザイン

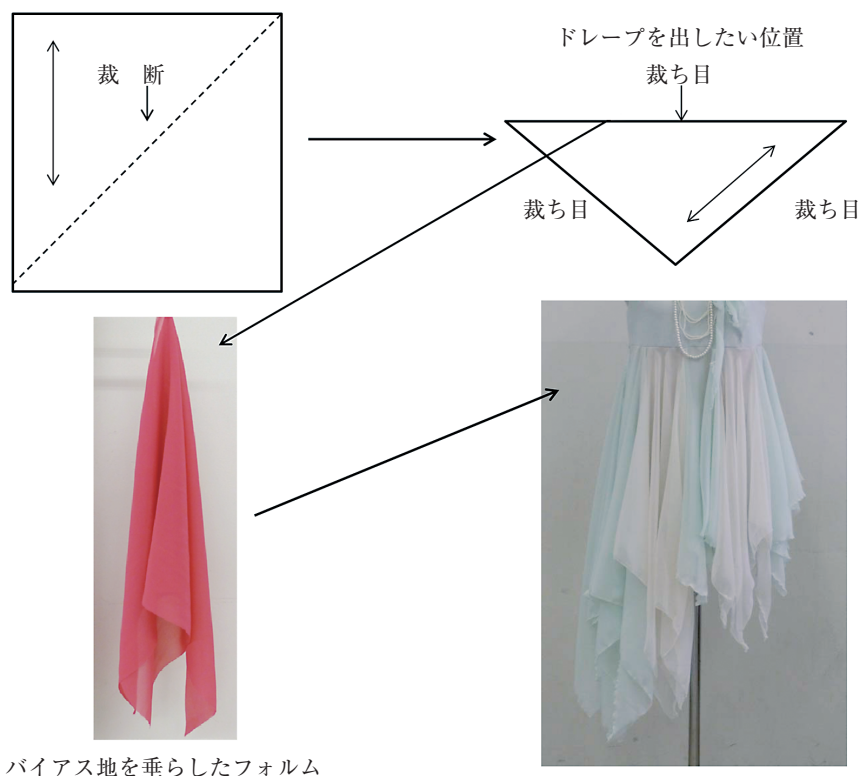


図5 オーガンジーを用いたアシンメトリーにデザインしたドレス

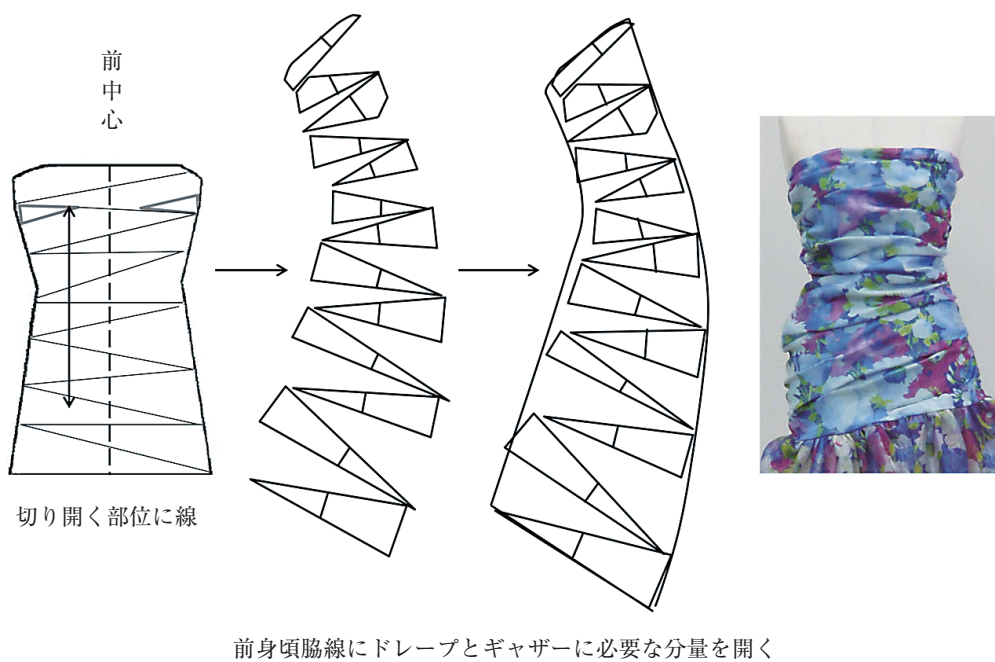


図6 フェーク・レザーと超合金を用いてデザインしたドレス



図7 ツインクルサテンとオーガンジーを用いたフレアーとタック

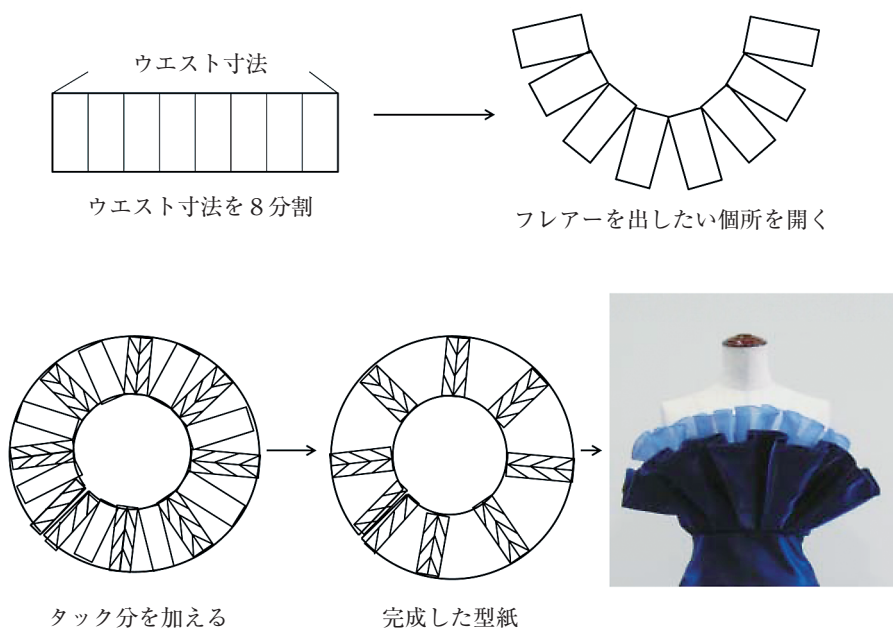
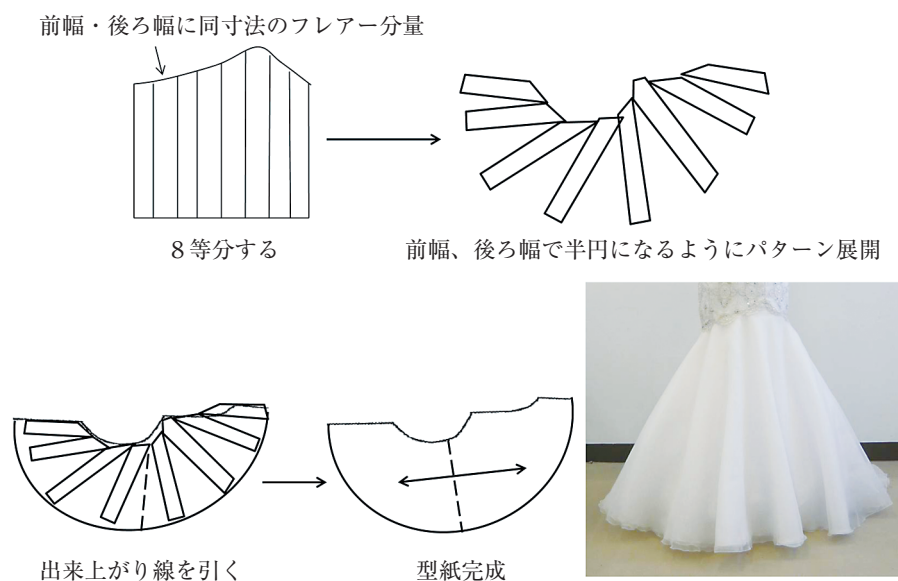


図8 ラメチュールアップリケレースとオーガンジーを用いたウェディング・ドレス



図9 優雅なフレアーを表現したスカート



No.7

存在感のあるレモンイエローのリボンチュールレースをもちいたトップスは、布地本来の鮮やかな色彩と、チュールレースの豪華さを生かすために、あえてシンプルなデザインにしている。スカートは張り感のあるアセテート・モアレ地をもちい、トップスのペプラムとスカートとのバランスがポイントのツーピース型になっている。華やかで可愛いイメージのドレスになっている。

No.8

ベアトップのドレスは、グリッターフロッキー布地を用いている。チュールの布地に幾何学模様加工が施されている布地の面白さを生かすために、デザインはシンプルにした。ローウエストに切り替えたスカート部分は、裏地にもちいたサテンと同寸法にした、ギャザー・フレアーを入れることで、華やかなイメージのドレスを表現することができた。

No.9

ラメチュールアップリケレースとオーガンジーを用いたウェディング・ドレスは、図8で示すようにトレーンがついている。バイアス地の特性を生かしたトレーンは、ウエストラインからすそにかけて、美しいギャザー・ドレープを表現することができた。リボン部分はオーガンジーを数枚重ね、ふんわりと風船のように膨らませ、何枚かの花があしらわれている。デコルテされたトレーンをつけることで、豪華で可憐な美しさを表現することができた。

No.10

チュールレース全体にシルバーのラインストーン、ビーズ、スパンコールが施された豪華な布地をもちいたドレスのトップスは、ボディコンシャスのマーメイドラインにデザインした。図9で示すように、スカートは優雅なフレアーを表現するために、前後のつけ寸法を8分割し、半円形にパターンを展開している。布幅いっぱい裁断したオーガンジーを5層、重ね合わせ形つくることで、優雅で美しいフォルムをつくり出すことが可能になった。

これまでに被服構成実習の授業を履修する学生に対して、被服製作の経験等について調査を続けてきた結果、本学に入学前までに衣服の製作について、経験がない、あるいは、ほとんど経験がないと回答した学生が大多数を占めていることが明らかになった⁹⁾。被服構成実習を受講する学生の多くは、小・中・高等学校にかけて手芸的な経験はあるが、一枚の衣服をつくり上げる経験はしていない。これらの学生に対して、つくりたいイメージのドレスを完成させるまでの工程は至難の業である。経験のない学生に対してデザインを指導する際に、実際に布地を用いた試料を提示し、布地の物性がつくり出す造形美を学生自らが目で見、触れて、理解させることが重要である。被服構成実習では、学生がこのような体験をとおして理解を深め、被服製作ができることを目標にして授業を展開してきた。

これまでの調査で、学生が好きなドレスのデザインは作品No.1（図2、図3）や作品No.2（図2、図4）のように、軟らかいシフォンジョーゼットやオーガンジーを用いて、ギャザー・フレアーをたっぷり取り入れたフェミニンなデザインであることが分かっている^{8,9)}。ウェディング・ドレスの場合でも同じ傾向が見られる。作品No.9（図2）のウェディング・ドレスでは、図8に示したようにベア

表1 生地の種類と組成繊維

作品 No.	生地の種類	組成繊維
No.1	シフオンプリント シフオンジョーゼット	ポリエステル 100% ポリエステル 100%
No.2	シフオンジョーゼット 裏地	ポリエステル 100% ポリエステル 100%
No.3	オーガンジープリント サテン	ポリエステル 100% ポリエステル 100%
No.4	フェイク・レザー 超合金	表 ポリウレタン 100% 裏 ポリエステル 100% ポリエーテル 90% ポリウレタン 10%
No.5	フェイク・レザー 超合金	表 ポリウレタン 100% 裏 ポリエステル 100% ポリエーテル 90% ポリウレタン 10%
No.6	ツインクルサテン ポリエステルオーガンジー	ポリエステル 100% ポリエステル 100%
No.7	リボンチュールレース ファンタジスタソフトサテン アセテートモアレ	ポリエステル 100% ポリエステル 100% アセテート 100%
No.8	グリッターフロッキー生地 ファンタジスタソフトサテン	ポリエステル 34% ナイロン 33% ビスコース 33% ポリエステル 100%
No.9	ラメチュールアップリケレース ブライダルサテン ポリエステルオーガンジー	ポリエステル 100% ポリエステル 100% ポリエステル 100%
No.10	マモドアゼル ブライダルサテン ポリエステルオーガンジー	不明 ポリエステル 100% ポリエステル 100%

トップのビスチェにギャザー・フレアーをたっぷり入れ、大きく膨らませたスカートは甘く可愛いイメージでデザインしている。ウェディング・ドレスは釣鐘型のシルエットを好む学生が多く見られる^{7,8)}。作品No.10(図2)のウェディング・ドレスは、図9に示した優雅なフレアーを表現したスカートになっている。マーメードラインの場合はゴージャスで美しいシルエットであるが、体型がリアルに表現されるということから、ボディコンシャスのデザインを好む学生は少ない傾向が認められる⁸⁾。

ドレスのデザインを指導する場合、学生の体型や個性を生かして考案するが、ドレス自体のシルエットを美しく表現するために、生地選択は重要なポイントとなり、ドレスの仕上がりに大きく影響する。被服製作の経験がほとんどない学生が、被服構成実習と多くの時間をつかって努力して、最終的にファッションショーで発表できる作品をつくり上げている^{8,9)}。教科発表(ファッションショー)を終了した後の感想文には、学生は被服製作で自分の作品をつくりあげたことに大きな感動や喜び、達成感を感じ取っていることが記述されている⁹⁾。

表2 布地の諸元

ドレスNo.	布地名	素材名	組織	密度		厚さ(mm)	重さ g/m ²	剛軟度(cm)	
				経	緯			経	緯
No.1	シフォンジョーゼット	ポリエステル	平織り	42	35	0.190	65.0	2.49	2.10
No.2	シフォンジョーゼット	ポリエステル	平織り	42	35	0.190	65.0	2.49	2.10
No.3	オーガンジープリント	ポリエステル	平織り	41	35	0.090	32.5	4.89	6.68
No.4	フェーク・レザー 超合金	表 ポリウレタン 裏 ポリエステル	裏 平織み	—	—	0.490	215.0	3.06	2.54
		ポリエステル ポリウレタン	裏 ゴム織み	—	—	0.370	200.0	1.98	1.78
No.5	フェーク・レザー 超合金	表 ポリウレタン 裏 ポリエステル	裏 平織み	—	—	0.490	215.0	3.06	2.54
		ポリエステル ポリウレタン	裏 ゴム織み	—	—	0.370	200.0	1.98	1.78
No.7	チュールリボンレース アセテートモアレ	ポリエステル	チュール織み	—	—	0.260	115.0	3.13	2.10
		アセテート	平織り	34	20	0.208	117.1	3.61	7.95
No.8	グリッターフロッキー生地 フアンタジスタソフトサテン	ポリエステル ナイロン ビスコース	チュール織み	—	—	0.250	67.5	3.66	3.78
		ポリエステル	朱子織り	40	37	0.110	77.5	3.51	3.94

5. まとめ

ギャザー性、ドレープ性、フレアー性の形状について、これまで学生が製作した作品において使用頻度の高い布地を抽出して比較した。軟らかい風合いのシフォンジョーゼット、薄く張り感のあるオーガンジーの場合は、ギャザー・フレアーをたっぷり入れることで、布地の物性を生かした美しい流れを表現することができる。軟らかいフェーク・レザーの場合は、ギャザー、ドレープ、フレアーなどドレスのデザインに多様に用いることで、さまざまな面白さを表現できることが分かった。布地のもつ物性を生かしたデザインをドレスに取り入れることは、経験のない学生にとって、縫製面での未熟さをデザイン上でカバーできる有効な技法といえる。

学生のもつ個性を最大限に生かしたドレスのデザインについて、今後も引き続き研究し深めていきたいと考えている。

参考・引用文献

- 1) 飯塚弘子他：服装デザイン論. 文化出版局. 東京. 2003. p93
- 2) 日本衣料協会：アパレルデザインの基礎. 日本衣料協会. 東京. 2004. pp103-105
- 3) 中屋典子：服装造形学 技術編Ⅲ. 文化出版局. 東京. 2001.
- 4) 成瀬信子：基礎被服材料学. 文化出版局. 東京. 1997.
- 5) 文化服装学院編：服飾デザイン. 文化出版局. 東京. 2009.
- 6) 小川秀子：ウェディング・ドレスの製作と着装. 新潟青陵大学短期大学部研究報告 33, 13-25. 2003.
- 7) 小川秀子：人間総合学科の特色を生かした授業の取り組みについて一考察 - ファッションショー作品からみる -. 新潟青陵大学短期大学部研究報告 37, 28-30. 2007.
- 8) 小川秀子：ウェディング・ドレスの嗜好性について一考察. 新潟青陵大学短期大学部研究報告 41, 42-48. 2011.
- 9) 小川秀子：被服構成授業の取り組みについて一考察 - ファッションショー作品からみる -. 新潟青陵大学短期大学部研究報告 42, 53-63. 2012.